



例年であれば、学習発表会に向けてステージ発表等の練習が始まる頃ですが、今年度は学習発表会が中止となり、いつもと違う学校生活を送っています。しかし、生活単元学習等の時間に、近くの公園へ行って秋探しをしたり、昼休みに友だちとグラウンドで野球やサッカーを楽しんだりする等、気持ちの良い秋晴れの下、子どもたちは学校生活の中で楽しみを見つけ、いきいきと活動しています。

オープンスクールも中止となり、地域の皆様との交流は限られますが、支援だよりやホームページ等で情報発信に努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

学校行事予定

12月16日(水)～20日(日) みんなのアート展(県立美術館)

県内特別支援学校の幼児児童生徒の作品展です。

12月24日(木) 2学期終業式

※行事や授業予定は今後変更もあります。変更時は本校HPにてお知らせします。

いなみ野特別支援学校 HP: <http://www.hyogo-c.ed.jp/~inamino-sn/>

支援のタネ

気になる、困った行動への支援アプローチ⑤(最終)

これまで困った行動の分析や対応方法について紹介してきました。今回は少し視点を広げて、学校の授業や活動への主体的な参加を目指し、困った行動が生じにくく「子どもたちが分かって動ける授業づくり」をテーマに紹介します。

学校生活の大半は“授業”です。授業での学習活動が子どもたちにとって分からなければ、子どもたちの行動は、望ましい行動よりも不適切な行動につながる可能性が高まります。子どもが主体的に活動に取り組み、周りから「ありがとう」と言った肯定的な評価を受ける機会が増えることで、困った行動は生じにくくなります。

「わかる」ために必要なことは、「いつ、どこで、誰と、何をどのような順番で行うか」が明確にあることです。そのために、写真のような立ち位置マットや正しい置き方を示す視覚的な手がかりは有効です。また、知的障害のある子どもたちは、「見る・聞く」活動よりも「身体が動く」活動の方が得意です。立つ・歩く、教材を取る・置く・貼る、手を動かして作業する等、動きのある活動を中心に構成することで、子どもたちが主体的に、自信をもって活動参加できることにつながります。

明日から取り組めるものとして、準備片付けを教師ではなく、子どもたちに教えて任せていくことは有効です。まずは、ここから始めていきましょう♪



火災避難訓練をしました

11月12日(木)に火災避難訓練を行いました。「給食室で火災が発生しました」という緊急放送があると、児童生徒は先生の指示をしっかりと聞いて、落ち着いてグラウンドに避難することができました。稲美分署より来ていただいた消防士の方からは、命の大切さ、「おはしも」を守り、決して校舎に戻らない事をお話しいただきました。

当日は、救急車や消防車に加えて加古川東消防署より高所はしご車も来て、8mの校舎の屋上に取り残された時を想定した避難訓練の様子を見学しました。その後は、中学部と高等部の生徒は、水消火器を使った消火訓練を行い、小学部の児童は、消防車や救急車の見学をしました。避難訓練を通して、火災が起こらないための日々の行動を見直すと共に、命を守る行動の大切さを学ぶことができました。

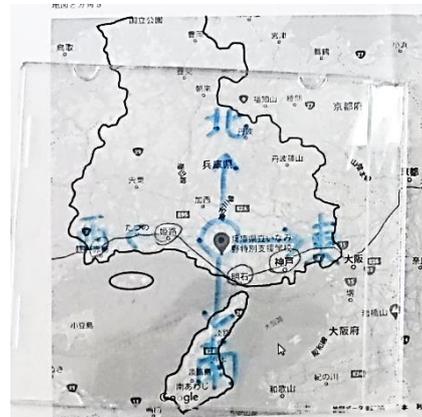


校内の取り組み紹介

本校中学部のグループ学習(国数社理英や自立活動を合わせた学習)での学習と小学部低学年のクラスの取り組みを紹介します。

◎東西南北、これでわかるよ!【中学部グループ学習】

地図を見る際、方角の情報は大変重要です。このグループでは、CDケースに東西南北を書いた支援ツールを使った学習を展開しています。生徒は支援ツールを地図上に置き、「学校からみて大阪、神戸は東にある」と確認しています。方角の概念を日常生活で使う地図に活かした取り組みに繋がりそうですね。



◎これでばっちり!伴奏は任せて!【小学部低学年】

小学部では朝の会と終わりの会に歌を歌っています。この時の伴奏は先生がすることが多いのですが、「先生のようにピアノを弾いてみたい!」と憧れている児童も少なくありません。このクラスの先生は鍵盤に色シールを貼り、楽譜も色で示して、児童が一人で弾けるように工夫しています。伴奏を任せられた児童は、とても張りきって弾いています。ちょっとした工夫一つで子どもたちの可能性は広がりそうですね。

